

21号  
2022.2

つなぐ  
カンパニー  
ながのはら

# ら♪ら♪ら通信

今年の冬はやけに寒い。滅多に凍らない近所の川一部が凍ったりして、それを見てはまた寒さを実感です…。毎日のマスクは時々息苦しさを覚えることもありますが、外に出た時は顔半分を覆うマスクが寒さしのぎになってくれている！ありがとうマスク。ウイルス対策だけでなく、寒さ対策にもなってくれているとは。と感謝してみたりして。

TOPIC  
01

## つなカン人材育成【ファシリテーター講習会】を開催しました



つなカン人材育成として、1月15日にファシリテーター講習が行われました。午前中はファシリテーションの役割や会議の進め方、準備などを座学で学び、午後は話し方や進め方などの実践を学びました。講師の植田優哉さんは講習のためにリラックスした雰囲気を作ってください、皆が自由に自分の体験や思ったこと、疑問などを話すことができるように導いてくれました。それもまたファシリテーターの技術です。そのおかげで参加者それぞれがお互いよく理解し合い、打ち解け、様々な考え方を共有することができました。小人数制なので一人一人がしっかりと考え、成長できる構成になっており、参加者は充実した1日を過ごしました。

今回受講して下さった方々は意識も高く、今後、様々な場面で地域をファシリテートする様子が目に浮かびます。

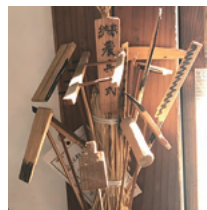


TOPIC  
02

## いってんべえ やってんべえ 小正月のツクリモノ「ホダレ」



ツクリモノ  
ぜひ見に来てね!



ミニチュア農具



展示物左手前からホダレ、木造道祖神、カユカキ棒、ハラミ棒、ミニチュア農具

1月15日前後の数日間を「小正月」といい「農の正月」「百姓の正月」とも言われ、様々な準備をしてこの日を迎えていました。その中でも長野原町の「ツクリモノ」はその種類の多さなど全国的にも珍しく、関西から調べにくる人もいます。今、やんば天明泥流ミュージアムの旧第一小学校でツクリモノを展示しています。昨年紹介した木造道祖神、キジグルマの他、カユカキ棒、ハラミ棒、鍬・背負子などのミニチュア農具など。ミュージアムの藤野麻子さんにそれぞれの意味や込められた想い、当時の人々の生活などを教えていただきました。

そのうちの一つ「ホダレ」は、枝の木肌をナイフで薄く縮れるように削ったお花のようなツクリモノ。これは幣束や花、稲穂などを表していて、豊穰への願いが込められたものとされています。

藤野さんもホダレに挑戦中で「このカールが難しいの」と制作途中の作品を見せてくださいました。王城山神社に行ったらホダレが供えられていました。ツクリモノは過去の物ではなく、今でも大切に守られ続けている町の伝統なんですね。

このホダレを作るナイフは「ホダレナタ」「ハナカキナタ」と呼ばれるホダレだけの専用ナイフで、藤野さんも探し回ってやっと手に入れた貴重な一本。いつかみんなで作りたいね、と女子トークに花が咲きつつ…肝心の「ホダレナタ」がないのが悩み。「作れるよ」という方、ホダレナタをお持ちの方、是非ご一報ください!!



形も色も綺麗に作り出されたホダレ

専用ナイフ「ホダレナタ」によって  
削り出る見事なカール!



TOPIC 03 次回のつなカンミーティング

地域の交流の場「つなカンミーティング」が北軽井沢TAKIVIVA(タキビバ)に出張します! TAKIVIVAはイベント等、様々なシーンに合わせてご利用頂ける「焚火に集う宿泊型ミーティング施設」。焚火は人々を惹きつけ、本質的なコミュニケーションを促す力があります。町のしゃべり場「つなカンミーティング」にご参加頂き、火を囲むミーティングを体験してください。

日時 2月27日(日) 14:00～

場所 TAKIVIVAタキビバ  
北軽井沢1990-5647

参加費:500円(会員300円)※飲み物代  
※やむを得ない理由で中止となる場合は  
つなカンホームページでお知らせ致します。



長野原町ふるさと再発見

TOPIC 04 早朝!ハッ場ダム見学ツアー

「早朝!ハッ場ダム見学ツアー2022年1月」が1月18日に行われました。前日の雪の影響で参加人数は少なめでしたが、冬場でも意外に暖かいダムの中を、みなさんと話をしながら楽しくツアーを行いました。



コロナ感染拡大の状況を鑑み、2月～3月はダムツアーを中止いたします。



読み札【か】  
～勤場木の住居跡～

読み札をめぐりながら長野原町の魅力再発見!



左: 嶋村明さん 右: 塩野英介さん

絵札にあるかやぶき屋根の小屋。「縄文時代ってこんな立派な建物だったんだ」とこの建物を住居跡と間違える人が多いとか。違いますよ!この「古代をしのぶ住居跡」はこの建物の中にある住居跡のことです!!主役は中ですから!!ちなみに現在はこの建物も新しくなっています。建物で覆われているとはいえ、地面がむき出しなので、冬は霜が降り、春にそれが解けると崩れてしまうし、草も生えるなどして風化してきてしまうので、数年前に専用の樹脂で固められました。いやぁ、これで安心だよ、とお話をしてくださったのは塩野英介さんと嶋村明さん。この住居跡は県の指定重要文化財に指定されています。見つかったのは昭和28年、塩野さんのおじい様とお父様が畑を田んぼにしようとして土地を整備していたら土器などが出てきたことがきっかけで発見されました。群馬大学の先生たちがやってきて塩野家の軒下にもしろを敷いて、掘り出した土器などを何やら調べたり記録したり…。当時英介さんは小学1年生。子供心に「なんかすごいもんだなあ」と見ていたそうです。まだその頃は発掘調査など盛んではなかったのもとても貴重なもの、と県の指定を受けたそうです。住居跡があるということは、山に囲まれ日当たりもよく水もある住みやすい場所だったということ。「つまり昔から勤場木はいいところだってことだよ」そこ、ちゃんと伝えてね、とニコッと笑うお二人でした。(豊田香織)

読み札【ち】  
～中央小学校の板碑～



「板碑」は中央小学校の校長室にあります。お忙しい中、中央小学校の篠原正洋校長先生にお時間をいただきお邪魔しました。「板碑」は明治43年、中央小学校建設中に発見されたもの。

これは南北朝時代(歴史苦手な方のために…鎌倉と室町時代の間です)の物で梵字が書いてあります。梵字、ということは仏教的なものを意味します。発見された時期は違いますが、この土地から板碑の他に、奈良から平安時代の「瓦塔(がとう)」も発見されました。粘土を焼いて作られた三重塔か五重塔の屋根の部分で、これも信仰の対象。また体育館・プールを建設する時には蔵の跡が出てきたそうです。蔵を持っているのは裕福な名主、つまりこの場所は長野原町の中でも、仏教が盛んで豊かな村であった、ということがわかるそうです。今回いろいろ教えてくださった篠原校長先生、なんでこんなに詳しいの?!と思ったら、なんと考古学が好きで埋蔵文化の調査団として発掘作業に加わっていた方だったんです。天明泥流ミュージアムの「梅干し」「線香」「油絞り」、樽が埋まっている家の跡など篠原先生が発掘されたものがいっぱいあります。「梅干し」や「線香」の発掘時のお話などを聞いていたら、すぐにでも天明泥流ミュージアム見に行きたくなってきました…じゃ、行ってきます!(豊田香織)



中央小学校  
篠原正洋校長



お問合せ 一般社団法人つなぐカンパニーながのはら 事務局  
群馬県吾妻郡長野原町大字川原湯223番地5 (川原湯温泉あそびの基地NOA内)  
Tel.0279-82-5895(代表) Fax.0279-82-5896 info@tsunacom.or.jp



最新の活動は、facebook「つなぐカンパニーながのはら」でも発信しています。

「つなカン」HPはコチラでアクセス→